

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0197400047, 特定非営利活動法人リスペクト, 認知症高齢者グループホーム碧水, 北海道雨竜郡北竜町字碧水15番地2, 平成27年10月21日, 平成27年11月10日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0197400047-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains: タンジェント株式会社, 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内, 平成27年11月6日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、今年介護保険難民というテーマのテレビ取材で放送もされ、その後、地域の皆様からグループホームの運営はいろいろ課題があり、大変なんだと言う反響をいただきました。グループホーム碧水や地域の皆様にとってもホームの現状課題をよく理解できたのではないかと考えております。また、地域密着サービスという関係から、地域住民の皆様と年々一緒にいる機会を作り、焼肉パーティーなども行いながら、地域に根差したグループホームを目指しております。冬期間は、近所の自宅前の除雪を行うなど積極的に地域に溶け込む取り組みを実施して皆様にご満足いただいております。ホームの行事も固定的ではなく、利用者の皆さんと話し合い、今、何がしたいか、何が食べたいか等日常的に聞いており、出来る事があればすぐ実行するといった方法も取り入れながら、利用者の方々に喜んでいただいております。(回転寿司・買い物ドライブ・故郷訪問等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<戸外に出かける取り組み>
一人ひとりのその日の希望に沿って、職員と一緒に散歩、町内のコンビニや深川のスーパーでの買い物、地域住民も参加する焼肉パーティを開催するなど戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、お花見やバラ園見物、増毛でのさくらんぼ狩りや回転すし等の外食など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。
<地域との交流>
地域の介護施設職員交流事業に参加して同業者との職員交流に参加したり、認知症サポーター養成講座の講師を務めて行政職員や農協婦人部に向けて認知症への理解や広報に努めている。また、町内のお祭りや文化祭参加、冬の除雪への協力など地域の人々との交流、連携に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前から作っていた理念が現況に合わなくなってきた関係から、職員ともう一度みんなで共有できる理念を創り上げ実践をしています	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念の見直しを実施し、職員間で共有し、実践できるように検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々と交流が図れるように、焼肉パーティーや町の行事などに出向いて行って、地域住民と交流が図れるように努めています	認知症サポーター養成講座の講師を務めて行政職員や農協婦人部に向けて認知症への理解や広報に努めている。また、町内のお祭りや文化祭参加、冬の除雪への協力など地域の人々との交流、連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も役場職員の認知症の人への理解ということで研修会に呼ばれ、約20名程度の人たちに向けて講演会をキャラバンメイトとして実施してきております		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1度は運営推進会議を実施しており、業務内容の事や現状の事等すべてについて報告させていただいております。また、運営推進委員さんからも、心強い助言なども賜り、良い関係で推進会議を行っております。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、事業所の取り組み状況や職員の外部研修参加など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡をとるなど心がけており、色々な場面での指導や、不安なことなどにも相談にのっていただけ、何でも話せるより良い関係を築いております。	町担当者とは、日常的に情報交換しながら指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対行わないという考えから、利用者さんには自由に行動してもらっております。外へ行くときも職員が同行したり、夜間眠れなくて起きてきた場合でも職員が寂しくないよう話し相手になって安心感を与える等のケアにも取り組んでおり、利用者様が安心して生活が出来る環境づくりに努めています。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を外部研修への参加や内部研修会開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修には毎年必ず、職員が研修を受けられる様支援しており、職員同士、その行為が虐待にならないように注意を払うなどお互いに注意をするといった状況ができてきております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体の理解は概ねできてはおりますが、実際に制度を利用して契約された方がおらず、深い理解には至っておりません。権利擁護の研修の機会があれば、積極的に参加したいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧な運営方針に掲げており、利用者やご家族様とのトラブルにならないように説明しております。また、トラブルになりやすい金銭面等での説明には時間をかけながら納得できるように説明をして理解をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、推進委員より貴重なご意見や要望をいただいております。いつでもこれらを参考にしながら、運営に反映できるよう取り入れております。また、ご家族様からの提案などにも耳を傾け、改善できる事は改善しながら運営しております。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置していると共に市町村等の苦情等の申し出先を明示している。また、家族等からの意見や要望等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての職員の意見が聞ける時間を設けており、職員の要望や意見を聞きながら、改善できることは改善していくという姿勢で、運営を行っております。	定期的な会議や日常業務を通じて、職員からの意見や提案を聞く機会を設けて、そこで意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の成果が給与に反映できるよう人事考課をこの4月から実施しており、やりがいのある職場環境の実践に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、札幌や旭川など積極的に職員を勤務扱いで研修に出向いております。出張後の復命書も提出し、その後の職員会議の中で報告も行ってまいります。また、介護職員初任者研修にも積極的に参加し資格の取得に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他の事業所との研修会終了後において交流会等にも参加しており、横の連携を大切にしながら、すこしづつ新しい情報を取り入れながら、サービスの向上に繋がるように取り組んでおります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安等コミュニケーションを取り入れながらスタッフ全員でセンター方式を用い、日々の生活が安心して遅れるようアセスメントを行いながら、利用者との関係づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族の心配していることなど家庭訪問を取り入れながら、聞き取り調査も行っており、今後の方針等のアドバイスなども行ってまいります。また、家族の身になって考える姿勢で普段からも面接時等でも必要があれば、相談させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者ごと家族の関係がうまくいっているかどうかを見極めながら、心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスが行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で聞くように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持ちが生まれており、入院などしたときには皆さんが心配するといった場面が見られております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見や考え方もきちんと聞き、勝手にホームの都合でサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、どこの病院が良いかを聞くなど出来る限りの配慮をするよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問支援や散歩、盆踊りや町内会行事等の参加を通じて、なじみの場所などとの関係が途切れないように努めている。	町内のお祭りや文化祭参加、近隣散歩や買い物、友人・知人の訪問支援等を通じて馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族のようにいたわりながら生活している状況が見られております。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後片付けを手伝ってくれるといったお互い助け合う気持ちが出てきております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になって退去することになっても、いつも家族の一員として考えており、入院先の医療相談員や担当医師ともよく相談しながら、次の入居先なども見極めながら、ご家族に心配かけないようにご本人やご家族に支援しており、大変喜ばれています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔から馴染んでいた生活などをご家族様に事前に書いていただき、介護計画の参考にしております。ただし、独り暮らしの場合は、家族に聞いても分からないことがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に一回のアセスメントを行い、その人の心身の状況や何ができて、何ができなくなってきたのかの把握に努めながら、毎日漠然と過ごすのではなく、1日を学園生活に置き換え、勉強するといった生活なども取り入れながら取り組んでおります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題とケアの在り方について、センター方式を活用してご本人、ご家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している。しかし、日常的に家族との係わりが少ないこともあり、ご家族の要望やご意見が聞こえづらいことになっていると考えてもおります。	本人、家族の意見や要望、モニタリングで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけでなく1週間前の状況などにも目を通しながら適切なケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援ができるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇づくりなどを行い、お花を觀賞したりして、それぞれの方たちが楽しめる環境づくりを実践しております。また、夏期には盆踊り、冬期にはクリスマスパーティーなどに参加したり、地域の行事等にも参加しており、季節に応じ楽しんでいただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援しております。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっております。	協力医療機関や看護師との連携、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務は、週一回午前中みの勤務となっておりますが、皮膚疾患の処置やバイタルチェックを行っていただき、利用者の異常を職員が発見した時には、適切なアドバイスをいただいております。また、夜間など相談したいときにはいつでも電話ができる体制になっていることから介護職員にとっても安心できる心強い存在となっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はいつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり、受け入れ準備がしやすく、利用者のお見舞いに1週間に1回程度病院へ出向き、看護師さんに状況を聞いて情報の把握にも努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできる事を十分に説明しながら方針を共有しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法についてすべての職員が熟知しているかというまだまだといった感じですが、救急救命の方法の一部として、AEDの使用方法や人口呼吸法の研修など、毎年1回は札幌市防災センターに職員が出向いて研修を受けてきております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の緊急時に協力等が得やすいように、火災避難訓練に参加を呼びかけ、協力体制の構築に取り組んでおります。また、夜間を想定した避難訓練を中心として毎回行っております。また、北竜消防署との合同火災消火訓練にも参加させていただいております。	消防署の合同火災消火訓練への参加や夜間を想定した火災避難訓練を実施している。また、地元の人々の協力が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制構築に取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう内部研修会開催や日常業務を通じて職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定できるように取り組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人のペースを大切にし、職員の都合で何でもしてしまうことの無い様に留意しながらサービスの提供に取り組んでおります。今日はどうのように過ごしたイカは本人が決めるように日課は固定しておりません。その人らしく生活できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意をしており、お化粧をすることは女性にとって生きがいともなっており、可能な限りお化粧を楽しんでもらっております。下着なども汚れやすいことから、ご家族にも説明を行いながら下着の購入にもご協力いただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が食事の準備や後片付け等を一緒に行っております。	食事が楽しみなものになるよう、時には回転すし等の外食に出かけたり、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在はレトルト食品を朝食と昼食に使用しており、味の方も利用者様から美味しいという評価をいただいております。栄養の面でも管理ができており、よい傾向になっております。夕食は手作りとなり、利用者様の食べたい物を中心に作る等の工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや口臭が生じないよう、毎食後一人ひとりの口腔状態の観察や、本人の力でも口腔ケアができるように声掛けする等の支援を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を個別にとらえるため、排泄チェック表を用い、できるだけ家族の経済的負担を軽減できるよう、時間を見計らってオムツに頼らないトイレで排泄ができるように努めております。	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や便秘を及ぼす影響を理解し、出来るだけ運動ができるように声掛けしたり、歩行介助等を行いながら、個々に応じた便秘予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者様の希望に応じて、毎日午前入浴や午後からの入浴も可能として行っております。職員の都合で、曜日や時間を決めてしまうことは行わず、個々の希望に沿った支援を心がけて行っております。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて午前・午後入浴が可能になっており、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の皆様が、いつでも休息したり、ホールのソファで昼寝ができる環境づくりを心掛けており、利用者様は自分のお部屋で休むのではなく、ホールのソファで好きなように過ごされ安心して気持ちよく雑談したり、眠られております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の副作用や、用法、用量について理解しやすいようにいつでも見れる環境を整えており、服薬管理の支援と一般状態の変化にも留意する等にも努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めておりませんが、その日の気分にもよりますが、勉強したい時にはいつでもできる体制を整えており、また、カラオケで歌を歌ったりと思い思いに自分達で考え行動し、楽しい娯楽ができるように支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期の外出の散歩は中々できませんが、春から秋にかけては、本人の希望があれば、職員と一緒に買い物や散歩に出かけたり、四季に応じた屋外ドライブや、町内や近隣地域の催し物などへ出向いていき、見学など行いながら楽しめれるように支援しております。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、地域住民も参加する焼肉パーティを開催するなど戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、お花見やバラ園見物、増毛でのさくらんぼ狩りなど普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入居前になるべく持たせないように家族などにも説明しておりますが、どうしてもというご家族様に対しては、本人の財布のお金は管理ができず、なくなっても責任が持てませんとお話をしており、3000円程度まではご本人に持ってもらっております。買い物など行くときに使ってもらっております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから来た電話の取次ぎも行っており、その都度対応しています。また、手紙を書く方もおられますので、郵便局に出すなどの支援も行ってまいります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、趣味を凝らし、固いイメージがないように配慮しております。日中の照明は夜間を除き、一日中点けております。転倒予防にも役立っていると考えております。冬期間の温度管理は勿論の事、湿度管理では室内が乾燥していることもあり、中々湿度が上がらない状況もあり苦慮しております。ちなみにホール内では蒸気発生装置を4台使用し乾燥しないように努めております。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、温度や湿度の管理、季節毎の飾りの工夫等で生活感や季節感を採り入れながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者同士が会話できるよう目配りをしながら、いつでも利用者様同士が話す事が出来る環境づくりに取り組んでおります。職員がお茶を出したり、コーヒーを一緒に飲んだりコミュニケーションがとりやすいような雰囲気づくりに努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持って来ていただき、自分の家と同じような環境をご家族様に作っていただき、生活できるように支援しております。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、その人に応じた役割が日常の生活の中で自然とできるように自分の部屋の掃除や洗濯たみ等をお願いしたりして支援を行っています。何でもしてあげるのではなく、何ができて、何が出来なくなってきているのかを見極めながら支援を行っています。		

目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム碧水

作成日: 平成 27年 11月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	職場環境の整備による労働環境改善、職員確保の必要がある。	人材育成、能力開発、自己啓発の推進。	外部から専門家を招聘して就業環境の整備に取り組む。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。